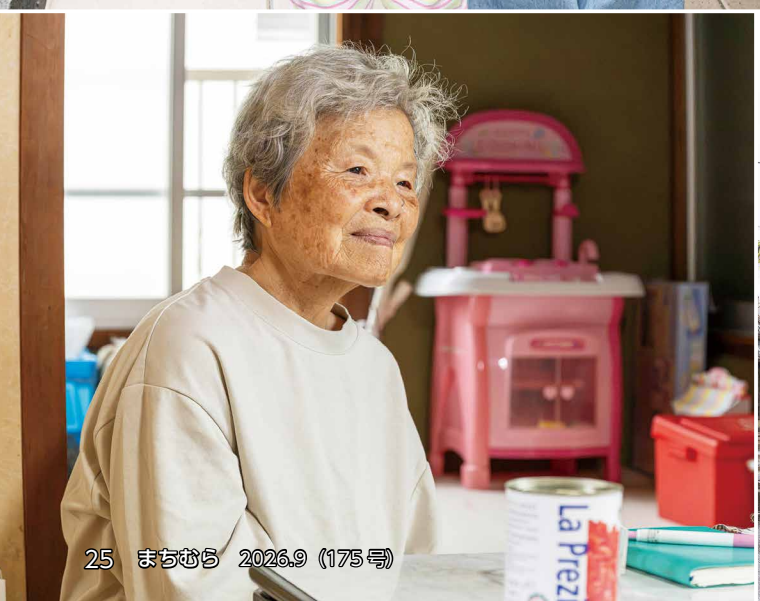
産前産後弁当宅配および助産師訪問事業

埼玉県狭山市・鹿児島県屋久島町
特定非営利活動法人こそだて支援comono

















埼玉県狭山市の住宅街にある原川助産院。その2階に「特定非営利活動法人こそだて支援comono」の事務所がある。朝9時半になると、電話やＬＩＮＥを通じて弁当宅配の申し込みが次々と入る。

comono代表の兒玉保光（こだまやすみ）さんは「お弁当は何食お届けしますか？」「赤ちゃんのお誕生日は？」「夜は眠れていますか？」などと相手に尋ねながら、配達先を確認していく。「2人目なのでしんどいですよね」と声を掛け、チャイムを鳴らしてもよいか、マスクは必要かなど、利用者の状況に気を配っていく。お昼前になるとスタッフの前田さんも訪れ、午後の配達ルートを決めていく。

comonoは、妊娠期から産後1年までの人や、1歳未満の赤ちゃんがいる家庭を対象に、産前産後弁当宅配と助産師訪問を行っている。午前中に注文を受け、午後は子育て経験のあるメンバーが弁当を家庭まで届け、玄関先で顔を合わせて話をする。子育ての悩みを聞き、支援につながる情報を伝えることも大切な役割だ。

この日は、狭山市内のテイクアウト専門店「やさいの台所おひさまや」の弁当。旬の野菜を使い、手作りにこだわったお弁当には、玄米や雑穀、さつまいも、しめじ、キノコのクリーム煮など。八尺ささげを「ご縁結び」にした盛り付けはとてもきれい！　店主の川島さんは、以前シェアキッチンを利用していた時に兒玉さんから声がかかり、comonoの活動に協力するようになった。「comonoの利用者が普段も店を訪れてくれるのも嬉しい」と子育て家庭とつながる機会にもなっているようだ。

午後は配達に向かう。最初に訪れたのは、昨年より利用している二宮さん。玄関先で旅の話など会話が弾み、「困ったことがあれば何でも言ってください。助産師にも相談できます」と、必要な支援を気軽に利用できることを伝えた。続けて訪ねた山崎さんは、「ご飯作りは大変なので、週1回でもこういうサービスがあると助かります。助産師の訪問









も心強く、乳幼児健診の機会がない時期に自宅で相談できるのがありがたい」と2か月前から利用を続けている。また、3人のお子さんを育てる利用者は「家事で1日が終わってしまうなか、お弁当が届くと気持ちに余裕が生まれます。病院に行くほどではない悩みも話しやすい」と感じているそうだ。

comonoの活動は、自身の出産と子育ての経験をきっかけに生まれたと兒玉さんは振り返る。第一子の出産後、周囲に助けてくれる人がいても孤独を感じた。赤ちゃんの世話をしながら料理をするのが辛く、友人と会う約束をすることすら難しく思えた。第二子を妊娠したとき「産後は身内を頼ることが当たり前」という風潮や、行政の子育て支援利用の煩雑さに大きな壁を感じたという。「もっと社会で子育てができないか。必要なときに、もっと気軽に人とつながり、家事支援にもなる仕組みはないか」と兒玉さんが考えたのが、家事の負担を軽くしながら人と出会える弁当宅配の仕組みだった。

そこで2020年3月にcomonoを設立。同年5月から毎週水曜日に1食300円、15食の弁当宅配の活動を始めた。当初は、狭山市内の肉屋や米屋、農家から寄付された食材を集め、知り合いのカフェに届けて調理してもらった。開始から数か月、増え続ける注文に対応しようと、2021年には兒玉さん自身が食品衛生責任者の資格を取得してキッチンカーを購入。自ら弁当を作るほか、イベント出店による活動資金づくりや母親たちの居場所づくりも考えて活動してきた。その後、規模拡大にともなう負担が大きいことから、2023年度からは弁当1食500円・週2回の配達に変更し、その後現在では週1回の配達で活動を継続している。

一方、弁当宅配を届けるうちに、専門的な悩み相談を受けることも増えたことから、2020年7月から助産師訪問を開始。近隣で出産の相談をしていた助産師の原川さん











に声をかけ、兒玉さんと原川さんがともに家庭を訪問し、一人ひとりの相談に乗り、必要があれば専門機関につないでいった。

その後、２０２４年に兒玉さんは屋久島に移住したことから、狭山市での活動はもともと利用者だったメンバー等が引継ぎ、産前産後弁当宅配の活動を継続している。メンバーの竹野さんは、妊娠中から子どもが1歳になるまでサービスを利用して助けられた経験から、今度は自分も活動に関わりたいと考えたそうだ。

兒玉さんは移住先の屋久島でも弁当宅配を始めている。島では、都市部とは異なった母親たちの悩みがあり、産後の母親が孤立する状況を知り活動を始めた。こうして現在は、狭山と屋久島の２つの拠点で活動を行っている。

兒玉さんが大切にしていることとして、「連絡してきた人とのつながりの大切さ」を挙げる。例えば、対象年齢を超えていても利用を希望する人や、対応が難しい人などの背景には、深い悩みや事情が隠れていることが多い。「弁当宅配は人とつながるツール」と考え、利用条件で線引きせず、時間をかけて連絡を重ね、相手に寄り添い続ける。

団体名の「comono」には、スペイン語の「Como no?（なぜやらないの？やるでしょ！）」という前向きな思いと「小者（コモノ）は小者らしく、草の根で」という思いが込められている。これまでに届けた弁当は７０００食以上、助産師訪問は８００軒以上に上る。

弁当を届け、玄関先で顔を合わせて話をする。子育ての不安や悩みを共有し、必要な情報を伝え、専門機関につなぐ。家庭の中だけでは抱えきれない悩みに地域の人が関わる仕組みを、狭山市と屋久島から全国に広げていきたい、と兒玉さんは願う。

【連絡先】特定非営利活動法人こそだて支援comono
メール：comonosayama@gmail.com